



災害時 発達障害児・者への理解を

一見、障がいがあるように見えなくても、支援が必要な人たちがいます。
発達障害のある方は以下のような特性から、災害時には特に適切な支援を必要とします。

●避難が必要かどうかの判断が難しい

発達障害の方にとって、災害の怖さ、避難の必要性など理解や判断が難しい場合があります。個別の声かけをお願いします。

●コミュニケーションの困難さ

実物（食べ物、飲み物）を示して、質問する。
コミュニケーションボードの活用。

●変化が苦手～日常生活が変化すると不安になる～

初めての場所、予測がつかないことは私たち以上に不安に感じます。
わかる範囲で予定や見通しを伝えてください。

●避難所生活に馴染めない

大勢の中では混乱する場合があります。出来る限り、個別の空間を作る。
パーティションの活用(段ボール等でも代用可)。本人の安心グッズ（おもちゃ、ゲーム、本など）を活用。

●感覚面への配慮が必要

感覚面が過敏だったり、鈍麻だったりします。苦手な音は私たち以上に大きく聞こえます。
静かな場所への移動を促したり、イヤーマフなどの道具活用を促したりしてください。



公益財団法人
明治安田こころの健康財団



ヘルプカード

知ってください!

「ヘルプカード」「ヘルプマーク」

援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるものです。カードを持っている方が困っていたら声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。



ヘルプマーク

ポイント

こんなことに
気をつけて!

- ・なるべく否定語は使わずに、指示や予定は具体的に
×「走らない」→○「歩きます」
×「そっちに行ってはダメ」→○「この椅子に座ってください」
- ・大声での注意は逆効果
- ・一斉に伝えただけでは、理解できないことも。個別の声かけやメモや掲示の活用
(見てわかる工夫)



「周囲の理解」
が家族を支えます!

発達障害児者は見た目ではわかりにくいので、偏食やパニックになってしまうことを「わがままや育て方の問題」と誤解を受けてしまいます。「発達障害」について周囲が理解していれば、家族の負担は軽くなります。発達障害児者、その家族が災害のうえに、避難生活において「周囲に理解されない人災」を受けることが無いようにしていきましょう。

発達障害に関する相談は

